

JRC部の全国大会出場が新聞掲載されました②

平成29年9月26日（火） 中日新聞朝刊 尾張版

手話甲子園 心ひとつに

1日開催 杏和高生 演劇で「共生社会」

稲沢市祖父江町の杏和高校JRC（青少年赤十字）部の九人が、十月一日に鳥取市で開催される「全国高校生手話パフォーマンス甲子園」に出場する。本選出場は三年連続で、テーマに掲げる「共生社会」を歌やダンスを交えた演劇で力いっぱい



全国大会に挑む（前列左から）荒木さん、飯田さんと、（後列左から）吉村さん、小渡さん、鈴木さん、牧田さん、藤井さん、岡田さん。右端は顧問の森さん。＝稲沢市祖父江町の杏和高校で

表現し、優勝を目指す。出場するのは、二年の牧田菜さん（せ）、荒木麻生さん（せ）、飯田真世さん（せ）、鈴木梨恵琉さん（せ）、藤井海夢さん（せ）と、一年吉村乃彩さん（せ）、岡田梨奈さん（せ）、柴田彩乃さん（せ）、小渡美妃さん（せ）。

大会は、全国で初めて手話言語条例を制定した鳥取県で開催され、四回目。高校生が手話による歌やダンスなどを披露し、正確さや表現力を競う。今大会には五十四チームの応募があり、八月のビデオ審査予選を通過した二十チームが

本選に挑む。三年連続の出場となった今年の予選は、過去最高の十位以内で突破した。演目は東京アイズニシー（千葉県浦安市）の水上ショーをアレンジした芝居。約八分間で、人間とペガサスなどの伝説の生物の共生を描いている。九人はチレーターや役者、伝説の生き物を描いた旗を振る小道具係として舞台上立つ。掛け合い調子の歌や太鼓のバチや棒を使ったダンスなどがあり、六月ごろから練習に励んできた。

リーダーの飯田さんは「手話に緩急をつけて感情を表現するのが難しいけれど、みんなで一つのことをする楽しさを表現したい」と意気込む。

顧問の森雅子さんは「生徒たちのモチベーションがはち切れんばかりで、練習すればするほどどんどん上手になっている」と期待をのぞかせた。（秦野ひなた）

（秦野ひなた）

掲載承諾番号 20170927-20075

※ 記事の無断転載を禁ず